

1.外部評価結果報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2970600462
法人名	有限会社 祥寿会
事業所名	グループホーム こもれび
所在地	奈良県桜井市川合220-1 (電話)0744-44-1888
評価機関名	特定非営利活動法人 奈良高齢者・障害者権利擁護ネットワ
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	2008年 1月 16日

【情報提供票より】(H20年 1月 7日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 6 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.5 人	

(2)建物概要

建物構造	軽量 鉄骨 2階 造り
	2階建ての 1階~2階

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5万 円	その他の経費(月額)	実費	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(25万 円)	有りの場合 償却の有無	有 5年間	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(1月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	6 名	要介護2	8 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82, 歳	最低	59 歳		96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	菊川内科医院 再生会中和病院 杉平歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園に囲まれ日当たりも良く静かな環境に位置し、四季を楽しみながら落ち着いた生活が出来るホームである。運営理念に地域との連携に努め、地域社会で安心して生活を送れるよう支援している。人としての尊厳を大切に暮らしていけるよう支援している。職員配置も充分であり職員研修も積極的に参加し、介護の質の向上につとめている。4月から小規模多機能型デイサービスの開設が予定されており、地域との更なる交流が期待されます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	家族や地域への行事参加の呼びかけや、日々の暮らし、取り組みをホーム便りの発行を通して、啓発や理解を深めることを期待します。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者と職員で話し合っ作成し、評価することで気づいた事を日々のケアやサービスの向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームが事務局となり昨年第1回目を開催し市包括支援センター、地域の代表、家族を交えて認知症の理解、こもれびの介護、市地域のかかわり等の情報交換が出来た。今後も継続していく予定。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に苦情受け付け窓口が記載されている。家族利用者からの意見は、記録し日常的に話し合い、運営上の方針に活かしている。家族には面会時や電話で気軽に意見が言えるよう配慮している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との交流を理念に掲げ、自治会に加入し新年会や旅行、清掃活動にも参加しており、利用者は祭りなどの行事に参加している。ホーム内にマッサージ室が設置され、地域の人々が気軽に利用している。

2. 外部評価結果報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)		
I. 理念に基づく運営							
1. 理念と共有							
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念に地域との連携を大切にと謳っていて、人としての尊厳を大切に暮らせるための取り組みを目指している。				
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を目に付くところに掲示し、管理者、2ユニットの職員会議で具体的に話し合い、確認し日々の取り組みに活かしている。				
2. 地域との支えあい							
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設として自治会に加入して、新年会、旅行等に参加している。利用者は夏祭り等の見学を楽しんでいる。月1回、手芸のボランティアの訪問や、施設内のマッサージ室の利用もあり、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用							
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員のリーダーが自己評価を記入し、全職員に回覧し介護の評価、改善に向けての取り組みをしている。		
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームが事務局として、管理者がリーダーとなり平成19年7月に第1回の会議を開催した。市の包括支援センター、自治会、民生委員、婦人会等が参加し、認知症の理解、地域との関わり等、情報交換をしながら話し合い、今後継続していくことを確認している。	常勤 7人	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは、生活保護者を5名受け入れている関係もあり、常に意見、情報交換をしている。自治会に参加し地域の要望を聞きながら、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問や送迎の時、写真を見せたり日々の暮らしぶり、健康状態を報告している。	○	日々の暮らしやホームの取り組み等をホームだよりを発行し、家族、地域との交流が望まれる
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を契約書に明示している。家族の訪問時や電話連絡時に、できる限り話しを聞くようにしている。家族の意見を聞きながら、介護や業務の改善に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットで年間2-3人の入れ替えがある。新しい職員には、利用者の生活歴など情報収集し早くなじむように職員で協力している。家族にも紹介している。		
ユニット					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を全員が受けられるよう計画し、研修の内容は会議で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのつながりを大切にし、情報交換している。	○	平成20年4月より、小規模多機能デイセンターの立ちあげが予定されており、近隣のグループホームとの更なる交流が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	担当職員が事前に2回位訪問し、生活習慣ややりたい事など、本人家族と話しあい説明している。今後小規模多機能デイサービスを始める事により、更に馴染んでもらえる様に努めたい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔懐かしい歌をうたったり、ピアノを弾く人もおられる。編物手芸をしたり、洗濯物を畳みながら職員と利用者が、楽しく会話し、支えあう関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに声かけをして、本人の意向や思いにあわせて、ゆったり過ごされている。困難な事例にたいしては、家族から聞いたり職員会議で話し合い、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族と話し合い生活歴を生かすようにしている。ケアマネケアまの情報もいかしながら、職員間で話しあっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは、6ヶ月毎に見直し必要に応じて変更している。見直し以前に変化が生じた場合は、本人、家族と話し合いケア会議で検討し計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族も参加できるクリスマス会やイベントを行って、本人と家族が共にすごし、職員との交流を持つようにしている。日ごろから、本人、家族の要望にあわせて対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの担当医の診察が月1回実施されている。病状の変化による受診は、症状を家族に報告し希望にそって行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の話し合いは、早い段階から進めており、職員に看護師1名勤務しており、これまで2名のターミナル支援の事例もあり、全員で取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの状態を理解し、優しく声をかけをし、プライバシーに配慮し対応している。個人情報に関する記録は職員事務所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは一人ひとりのペースに合わせて、ゆったり過ごされている。テレビを見たり食後の昼寝をされたりして過ごされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで献立を考え、利用者の好みや食べやすいものを調理している。職員も同じテーブルでそれとなく食事のお世話をされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月曜日～土曜日の13時～20時の間に、希望に応じて入浴できる。入浴中は職員が見守りや介助し、入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中でおしぼりを巻いたり、洗濯物を畳んだりされている。趣味の電子ピアノを弾いたり散歩や食事会の外出など支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望によって散歩や買い物に出かけている。歩けない人は、車椅子や職員が付き添うなど外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム出入り口の門には、施錠されているが玄関やベランダへのドアには鍵はなく自由に出られるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時対応マニュアルは、作成しており、連絡体制についての訓練は実施している。消火器は設置されている。	○	今後は緊急時の定期的避難訓練の実施が望まれる。地域との協力や避難場所の確認など、緊急時に備えることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホーム内の献立で、柔らかく食べやすく調理されている。栄養のバランスも良く、食事の摂取量、水分量を把握し記録して、摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の窓は南側に開放されており、明るく、椅子やテーブルで居心地よく過ごせるようになっている。風呂やトイレも広く、バリアフリーで使いやすくなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、フローリングである。居間に畳敷きのスペースが一段高い所にあり、居室には本人の使い慣れた箆箆や椅子テレビなどが持ち込まれ居心地良く過ごせるようになっている。	○	畳敷きのスペースが洗濯物を干したり、物置のようになっている。利用者が足をのばしたり、くつろげる様な配慮が望ましい。